

景観作物としてのヒマワリ栽培

三浦半島地区事務所

近年三浦半島では、夏作の「スイカ」「カボチャ」「メロン」の栽培面積がしおれ症等の理由により減少しています。そのため夏の間、栽培の行われていない畑（休耕地）が多く見られます。休耕により、雑草対策や、畑の乾燥、強風による土ほこりなどが問題になっています。

夏場の花として有名な「ヒマワリ」は生育が速く生育期間が短い作物です。そのため、輪作体系に組み込みやすいという利点があります。

また「ヒマワリ」はVA菌根菌（根と共生する糸状菌（カビ）の一種）密度を高め、後作作物の生育を良好にすると期待されています。そして深根性の作物のため、栽培すると下層の土壌を改善する効果があります。そこで、緑肥・景観用作物として、「ヒマワリ」導入の効果を確かめました。



夏の「ヒマワリ」



ダイコン畑と「ヒマワリ」

平成16年の試験では、「ヒマワリ」は播種後約2ヶ月で畑にすき込むことができました。すき込み後に「ダイコン」を栽培しましたが収量、品質を損ねることはありませんでした。そのことから三浦半島の輪作体系に「ヒマワリ」を組み込めるのではないかと考えられました。また夏の「ヒマワリ」は印象深く観光資源としての効果も期待できました。今後はセンチュウ、後作の「ダイコン」「キャベツ」に対する影響の再確認、播種期と開花時期の検討を行います。

初夏の花壇を美しく彩る主役は

果樹花木研究部

平成17年6月10日に当センターの露地ほ場を会場として「第51回全日本花き種苗審査会 花壇苗（初夏）」（日本種苗協会主催）が開催されました。

花壇苗は毎年、様々な種類で多くの品種が発表されて、ガーデニングを愛する人々を楽しませてくれます。

この審査会は、種苗会社から発表される新品種を一堂に集めて、花壇の美しさを競うものです。

今年も、ベチュニア、パーベナ、ジニア、ダリア、ダイアンサス、フロックスなどが5社から23品種出品されました。

4月15日に1×1.5mの区画に3号ポット苗を植え付け、審査会の6月10日までの2カ月間当センターで栽培管理を担当しました。4～5月は晴れの日が多かったものの、気温が低く雨が少なかったため、いつもの年に比べて生育はやや遅くなりましたが、どの品種も順調に生育し、審査会までには全ての品種の花が咲きそろいました。

当日は、曇天でしたが、カーベットを敷き詰めたように美しい花が咲きそろい中で審査が行われました。審査は、(独)花き研究所、都県の花き試験研究担当者、種苗会社の担当者など12名の審査員によって行われました。

花の色のイメージや花数、株の広がり、咲きそろい、花壇で長い期間楽しめることなどが審査されました。

その結果、ベチュニアの「サルサ ローズ」が特1等、「サルサ ビバカンパニユラブルー」が1等、「サルサ ライトブルー」、「サルサ ライラック」が2等、「サルサ ライトピンク」、パーベナ「クオーツ マゼンタ」、「クオーツ レッド ウイズアイ」が3等に輝きました。



審査会の様子

農業技術センターニュース

創刊号

平成17年7月

発行 神奈川県農業技術センター

<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/nosoken/nosoken.asp>

〒259-1204 平塚市上吉沢1617 電話 (0463)58-0333 FAX (0463)58-4254

♻️100 再生紙を使用しています